

大きな概念の用語は下位語を含む検索をします。タイトルや抄録からもステロイド、パルスなどの言葉を前方一致検索で行います。

3) 疾患の用語

ディスクリプタにある用語はそれを使い、大きな概念の用語は下位語を含む検索をします。タイトルや抄録からもシキウタイコウカショウ、マクセイジンショウなどの言葉で前方一致検索をします。

4) 人での検討に絞る場合

ヒトの検索はチェックタグを利用し、チェックタグと記事区分を利用して、症例報告と総説の除去を行います。

まとめ

以上、MEDLINE, EMBASE, JMEDICINEの3つのデータベースでSystematic Reviewのための文献検索を行いました。検索戦略をまとめますと、基本的には、1つのデータベースに頼らないことがもっとも大切です。特にEMBASEの存在は忘れてはなりません。次に、それぞれのデータベースの仕組みをよく理解することが必要です。MEDLINE, EMBASE, JMEDICINEそれぞれに効率の良い検索をするための様々な工夫がされています。これを最大限に利用するにはまず、それぞれのデータベースの仕組みを理解することが大切です。そして、少し検索した結果を出力し、検索戦略を練り直すことも重要です。

Systematic Reviewの検索には、やはりMEDLINEはもっとも重要で効果的な検索のできるデータベースであり、今回最も狭い検索をした場合で約73%の的中率でした。EMBASEはノイズは多いですが、網羅性は高く、捨てがたい。今回最も狭い検索をした場合で約52%の的中率でしたが、該当総文献数はMEDLINEより多かったのです。



薬剤師

岡山大学薬学部卒業後、高松赤十字病院薬剤部勤務を経て、1989年から財団法人日本医薬情報センター。現在聖路加看護大学在学中。

はじめに

先ほど大津さんの話にもありましたように、データベース検索をする場合、一つに頼らないということでした。日本医薬情報センターのJAPICDOCをその一つに入れて頂けたらということで、主に特徴と蓄積状況をお話しして、その後に抄録の作られ方とキーワードについてご紹介します。

JAPICDOCの概要

まず最初に、JAPIC(日本医薬情報センター)という組織が作られましたのは1972年です。そしてJAPICDOCという文献検索用データベースが蓄積され始めたのは1973年からです。その後、今日まで蓄積してきておりまして、順番にJP78、85、JDOCというふうにファイルが分かれています。年代構成とともにファイルが3つに分かれているという認識を持っていただけたらと思います。

先ほどのJMEDの話にもありましたが、タイムラグということが問題になりますが、JAPICDOCの場合、JSHOSHIというものがあまして、これはとりあえず書誌事項から入れてしまおうというものです。雑誌入手からそこまで約2ヵ月かかっています。そこから約1ヵ月後にJDOCXができます。このJDOCXは最初の1ヵ月分だけをとりあえずオープンにしようというものです。その後すべてが入って蓄積されるJDOCになるまでに約1ヵ月かかりますので、足し算し

ますと雑誌入手からのタイムラグは約4ヵ月ということになるんです。ということで、早ければ1ヵ月のこともあります。もしかすると4ヵ月のタイムラグを見ていただくことになります。

抄録作成の特徴についてご説明しますと、JAPICDOCの特徴は、全体の雑誌数としては265という少ない数になるのですが、それは国内文献ということと医薬品に限ったものだけを対象にしているということがありますし、かつ、まず抄録を作ることから始めていますので、抄録が特徴であると言えばいいのでしょうか。基礎研究の場合は著者抄録があれば採用することになっています。臨床文献の場合は著者抄録があれば採りますが、論文によっては医薬品の効能や副作用を見たというものではない場合がありますので、その場合はあえて抄録を作り直すこともあります。医薬品に主眼をおく見地から作り直して載せるということです。その結果、年間13,000~14,000という文献が追加されています。国内で約7万件の医学関係の論文が出ているそうですが、そのうちの主に医薬品に関する論文を約1万3~4千件収録しているということになります。著者抄録はそのうち約半数です。

JAPICDOCのキーワード構成

つぎにキーワードの種類は、統制語としてつけられる場合、タグが決められています(資料-1)。また索引者があまして、その人たちが文献を

1) 統制語キーワード

キーワード	検索タグ
医薬品名	DN,GN
会社名	CO
剤形	DF
投与経路	AR
薬効分類	EF
内容分類	CL
疾病名	DS
副作用名	AE
その他	FW

その他の中の臨床試験内容・方法に関連したキーワード

キーワード	検索用コード	検索用ワード	使用可能年と検索タグ
臨床	3.3	臨床研究, ヒト	79~CL, 93~FW
症例報告	3.3, 3.3.0	症例報告, ヒト研究	79~CL, 93~FW
適応症外使用	3.3.1	適応症外使用, ヒト	79~CL, 93~FW
一重盲検法	3.3.2	一重盲検法, ヒト	83~CL, 93~FW
二重盲検法	3.3.2	二重盲検法, ヒト	83~CL, 93~FW
比較試験	3.3.2	比較試験, ヒト	73~CL, 93~FW
少量投与	3.3.3	少量投与, ヒト	83~CL, 93~FW
大量投与	3.3.3	大量投与, ヒト	83~CL, 93~FW
短期投与	3.3.3	短期投与, ヒト	83~CL, 93~FW
長期投与	3.3.3	長期投与, ヒト	83~CL, 93~FW
用法・用量	3.3.3	用法・用量, ヒト	79~CL, 93~FW
中毒	3.3.4	中毒, ヒト	79~CL, 93~FW
第1相試験	なし	第1相試験	83~FW
第II相試験	なし	第II相試験	83~FW
第III相試験	なし	第III相試験	83~FW
総説	なし	総説, REVIEW	79~FW

資料-1

読みながら付けていくもの、更にそれだけでは必ずしも十分なキーワードを付けることができませんので、機械切り出しでフリーワードを付けるという3つの方法を使っております。

キーワードの種類として、臨床試験の方法とかデザインングについて見ていこうとしますと統制語は一重盲検とか二重盲検とか比較試験くらいの認識でしか付けられていないというのがこれまでの現状です。

キーワード付与の変遷

1973年から作られ始めて、3ファイルに分かれているとお話しましたが、ファイルによって、索引者が抽出ワードを付けるとか付けないとか、自動切り出しをしているかどうかかなどの違いがあります。抄録を付与し始めましたのは1983年からです。抄録自体はそれ以前から作っているのですが、オンラインに載せたのが1983年からです。自動切り出しを始めたのがやはり83年から。索引者が抽出ワードをつけ始めたのは93年以降です。

気を付けていただきたいのは、二重盲検法とかランダムという用語を特定したいと思ったときに、JAPICDOCの検索用コードは臨床試験のクラス、種類を一応特定できるコードですが、

92年までは比較試験とか二重盲検は同等のレベルで認識されていまして、二重盲検という言葉がついていた場合、比較試験がついていない可能性があります。ですから検索用コードで引いていただきたいということです。93年以降になりますと、そういうのはおかしいということになりまして、二重盲検法という言葉があれば必ず、比較試験も振られているという作り方になっています。

二重盲検法と無作為化比較試験

日本の論文では、今までは二重盲検が中心に据えられてきたと言われます。では無作為化についてはどういうふうに言及がされているかをキーワードで見ってみました。86年以降のJDOCファイルに入っているものだけに限りませんが、全論文で12万7~8千件ある中で、二重盲検という何らかのキーワードが振られているものと、無作為化という用語があるものとをとかけてあわせてみましたら、わずかに145件でした(資料-2)。つまり二重盲検で約2000件、無作為で約1000件くらいあるのに、両者を持つ論文となると145に減ってしまうのです。二重盲検と書いてあるけれど、無作為化とか比較試験だということを書いているものがほとんどだということです。キーワードの不備もあるとは思いますが、論文中にふれられていないという特徴を示しているのではないかと思います。

二重盲検法と無作為化比較試験

JDOC(86~96)1996.10.18 更新時点; 全件数 127,779 件中

S ニジユウモウケン?(1,965 件) AND S ムサクイ?(1,206 件) 145 件

S ニジユウモウケン?(1,965 件) NOT S ムサクイ?(1,206 件) 1,820 件

二重盲検法関連の記載がある論文のうち
 1) 論文中どこにも無作為化に関する記載はなかった場合
 2) 論文中に無作為化に関する記載はあったが、標題・抄録中に無作為化に関する記載がなく、かつ、索引者がキーワードとして抽出しなかった場合

- ・86~92年の論文では、索引者によるキーワード抽出がなく、無作為化に関する用語の抽出は標題・抄録中にある場合のみ。
- ・93~96年の論文では、標題または抄録中に無作為化に関する用語がなくても、本文中で無作為化について言及されればキーワード抽出されている。

資料-2

無作為化比較試験に関連したキーワード

また、無作為化比較試験が用語として確立されていないというのが日本の現状だろうと思

ます。85年以降のJDOCの中だけでも探してみましたが、無作為 という用語がどのくらい使われているかを出してみました(資料-3)。そうしますと、25種類くらいあって、実際に論文の中を探してみますと、二重盲検交叉法とか無作為化二重盲検法とか封筒法とか。無作為化比較試験に関する用語の一般的な言い方が固まっていないうことをよく示しているのではないかと思います。

無作為化比較試験に関連したキーワード

JDOC(86~96)1996.10.18 更新時点; 全件数 127,779 件中

E ムサクイ? キーワード数: 25

キーワード*(は索引者が付与したもの)	論文件数	標題/抄録中の用語例
ムサクイ	769	無作為
ムサクイカ	41	無作為化
ムサクイカゲン	1	無作為化群間比較試験
ムサクイカシケン*	3	無作為化二重盲検比較試験
ムサクイカツ	28	無作為割り付け比較試験
ムサクイカツツ	14	無作為割付
ムサクイカヒカクシケン*	243	無作為化クロスオーバー法
ムサクイカヒモウケンシケン*	2	無作為化非盲検比較試験
ムサクイクロスオーバーシケン*	1	無作為、クロスオーバー試験
ムサクイゲン	1	無作為群間比較試験
ムサクイゲンカンヒカクシケン*	3	無作為群間比較試験
ムサクイコウサヒカクシケン*	2	無作為、交差比較試験
ムサクイゼンコウ	1	無作為前向き比較研究
ムサクイテキ	2	無作為的
ムサクイニジユウモウケンコウサシケンホウ*	4	無作為交差二重盲検法
ムサクイニジユウモウケンコウサヒカクホウ*	1	二重盲検交叉法, 比較試験
ムサクイニジユウモウケンホウ*	6	無作為二重盲検法
ムサクイヒカクシケン*	19	無作為比較試験
ムサクイフウトウホウ*	2	封筒法, 無作為
ムサクイブツクワリツク*	1	二重盲検群間比較試験
ムサクイモウケンカ	1	無作為盲検化
ムサクイワリツク*	173	無作為割付群間比較試験
ムサクイワリツクシケン*	1	無作為割付試験
ムサクイワリツクホウ*	2	無作為割り付け法
ムサクイ CEFTRIAXONE	1	無作為 ceftriaxone

S ムサクイ?(1,206 件) AND S RANDOMIZED?(176 件) 23 件

資料-3

具体的な検索例

今回、具体的検索例として膜性腎症と糸球体硬化症というものに関してどのくらいRCTとしてのデータが集められるかをやってみました。結論としては、膜性腎症、かつ副腎ホルモン剤を使っているということと、少なくとも比較試験を行っているだろうということで絞り込んでみますと、2件だけになりました。あまりに少ないし、糸球体硬化症に限ると、比較試験は引っ張ってこれなかったもので、ちょっとさびしいなと思ひまして、ネフローゼと広げてみましても、ステロイド治療ということで見ていくと7件に絞られました。膜性腎症で調べた2件もこれに

含まれていますから、少なくともこの2件はステロイドを膜性腎症に使用して効果をみた、かつ、何らかの群間比較をしているといえるものでした。実際に文献の中身を見ましたが、RCTまたはCCTと言えるのか、そういうことを明記する記載自体がなかったというのが現状です。

おわりに

以上のように、国内文献でRCTを探そうというのは非常に希望の持てない状況であるということが分かるのですが、今後RCTが増えてくれば、小規模なJAPICDOCでも、医薬品に関して絞り込めるといふ点などから、むしろ使い勝手のいいものとして利用していただけるのではないかと思います。